

1 学年 生活単元学習 学習指導案

単元・題材名 (授業名)	心とからだの学習② (自己理解を深めるために②)	生徒	1学年 生徒 23 名
		場 所	視聴覚室
日 時	平成 30 年 11 月 28 日 (水) 3～4校時	指 導 者	MT:山本 ST1:高山 ST2:亀田 ST3:泉谷 ST4:津村 ST5:山木 ST6:藤倉

1 授業のねらい

(単元の目標)

- ・心とからだが相関関係にあることを知ることができる。
- ・大人としての人との関わり方や行動について知ることができる。
- ・心とからだや人間関係について、関心をもつことができる。
- ・自己理解を深めることができる。

(本時の目標)

- ・自分の長所、短所を再度確認し、「なぜ」を考えることができる。
- ・自分の考えだけではなく、周囲のアドバイスを受けながら手立てを考えることができる。

2 生徒について

- ・自分たちの長所や短所を少しずつ気づき始めてきているが、それをどう行動に移したらよいのかが分からない生徒が多い。また、自分の障がいについて認めるのが難しい生徒もいる。
- ・8月下旬に現場実習を行い、自分の成果や課題を考える機会となったが、日にちが経つにつれて何をすればよいのかが薄れてきている。
- ・分からないことをそのままにして活動したり、周囲に相談したりすることができず、活動するまでに時間がかかる生徒もいる。

3 指導計画

- 第1回 11月27日 : 自己理解を深めよう①
- 第2回 11月28日 : 自己理解を深めよう② (本時)
- 第3回 1月22日 : 人との距離について (パーソナルスペース)
- 第4回 1月23日 : 人の心のはたらき、関わり方について
- 第5回 1月30日 : 大人としての行動と責任
- 第6回 2月 5日 : 自分手帳作成①
- 第7回 2月 6日 : 自分手帳作成②

4 「主体的・対話的で深い学び」を実現するための工夫

① 主体的な学びについて

- ・自分の長所、短所について、「なぜ」を考えることができる。
- ・自分で具体的な手立てを考えることができる。

② 対話的な学びについて

- ・話し合いの中で、それぞれの手立てのアドバイスをする。

③ 深い学びについて

- ・自分で考えた手立てがどの場面で実践することができるかを考える。

5 期待できる指導の効果

- ・自分が考えた手立てをどの場面で実践できるかを考えることで、学校生活、寄宿舎生活、家庭生活の中で、生かすことができるきっかけになると考えられる。
- ・今回の活動を通していく中で、今後も同様の方法で問題解決に向けた手立てを考えることができるのではないか。

※ 授業を振り返って

今の自分の長所や短所と向き合い、周囲からの見られ方などについて学習を行ったが、「どうして」や「なぜ」を書くのに苦労している生徒が多くいた。MT からの指示や ST の動き方を明確かつ端的にすることが必要である。

今回の授業では、生徒自身で自分のことを深く考えるよい機会になったのではないかと考える。今回の授業を通して、学校生活でのそれぞれの長所の伸長や短所の改善に向けた手立てを考えるきっかけになればと考える。一方で、自分のことを深く考えることが難しかったり、何をどうすればよいのか分からなかったりした生徒もいたため、今回の授業だけではなく継続的に指導していく必要があると改めて感じることができた。

「主体的、対話的で深い学び」の観点で授業を進めていたが、実際に深い学びに結び付けるためには、生徒には成功も失敗も様々な経験をすることでより深い学びにつながってくる。

内容が多く、生徒にこれだけは伝えたいことが曖昧になってしまったので、生徒たちがより活発かつ具体的な話し合いをするためには、内容を絞り込んでいくべきであった。

6 本時の展開

	学習活動	生徒の活動	教師の活動		教材教具
			MT	ST	
導入 10分	・挨拶 ・本時の内容説明 (前時の復習含む)	・農業科日直が挨拶をする。	・農業科日直に挨拶するように指示する。	・生徒が正しい姿勢、視線を MT に向けているかを確認する。	・ワークシート
		・本時の内容を確認する。 ・前時に使用したワークシートを確認する。	・前時に使用したワークシートについての復習をした後に、板書されている本時の内容を説明する。	・前時に使用したワークシートを見ているかを確認する。 ・黒板に視線を向けて聞いているかを確認する。	
	※本時の内容（板書） 1. 前回からの続き（長所、短所の「なぜ」を個人で記入） 2. 「なぜ」を考えた後に、手立てを個人で考える。 3. 自分が考えた手立てをグループで共有し、アドバイスをもらう。 4. アドバイスをもらった上で、手立てを再度考える。 5. 考えた手立てをどの場面で実践できるのかを考え、記入する。				
	・本時のルール確認	・本時のルールを確認する。 ・板書されている本時のルールを説明する。	・黒板に視線を向けて聞いているかを確認する。		
		※本時のルール（板書） ・誰かが話をしているときは、必ず手を止める。（メモは終わってからとる。） ・話し合いをするときは、全員が必ず意見を出す。 ・出た意見は絶対に否定しない。（+αの意見を出すのは可） ・分からないことがあるときは、自分から教師に相談する。			

展開 80 分	- 自分の長所、短所の「なぜ」 - 手立ての作成	- 前回のワークシートを基に自分の長所、短所の「なぜ」を記入する。 - 問題解決の仕方について知る。 - 自分の長所の伸長、短所の改善のための手立てを考える。 ※問題解決の仕方（板書） <pre> graph TD A[問題発生 課題など] --> B[経験] A --> C[試行錯誤] A --> D[相談] B -.-> C B --> E[解決] C --> E D --> E </pre>	- ワークシートを基に自分の長所、短所の「なぜ」の記入の仕方について説明する。 - 問題解決の仕方について説明する。 - 自分で伸長、改善のための手立の考え方を説明する。	- 机間巡視を行う。生徒からの質問や相談があったときは、答えを出すのではなく、アドバイスをする。 - 黒板に視線を向けているかを確認する。他のことをしている生徒がいれば、言葉掛けをする。 - 手立てを考える際、生徒からの質問や相談があれば、アドバイスをする。 - 困っている様子や相談が難しい生徒がいれば、ルールの確認をし、自分から相談できるようにする。	- ワークシート - ワークシート
	グループで共有	<u>記入したことをグループ内で共有し、それぞれアドバイスをもらう。</u>	グループ編成を説明し、それぞれが手立ての他に考えられることを<u>全員がアドバイス</u>することを伝える。	- 全員がアドバイスをしているかを確認する。 - 相手が言ったことを否定していないかを確認する。	ワークシート

	・手立ての再作成 ・実践場面を考える	・もらったアドバイスを基に手立てを再度考える。 ・実際に考えた手立ては学校生活や寄宿舎生活、家庭生活などどのような場面で実践することができるかを具体的に記入する。	・アドバイスを基に、自分にとってより良い手立てを考えることを伝える。 ・自分が再度考えた手立てがどの場面で実践することができるのかをまとめることを伝える。	・机間巡視をし、手が止まっている、困っている様子の生徒がいるときは、どうすればいいのかをアドバイスする。 ・机間巡視をし、手が止まっている、困っている様子の生徒がいるときは、どうすればいいのかをアドバイスする。	・ワークシート ・ワークシート
整理 10 分	・振り返り ・挨拶	・本時の学習内容、話し合いの振り返りをする。 ・農業科日直が挨拶をする。	・振り返りシートを渡し、記入することを伝える。 ・全員記入後、本時の活動について総評する。 ・農業科日直に挨拶するように指示する。	・分からないことを生徒から相談があった場合は、アドバイスをする。 ・MT の話を正しい姿勢、視線を向けて聞いているか確認する。 ・生徒が正しい姿勢、視線を MT に向けているかを確認する。	・振り返りシート

※協同学習の要素となる所には下線を引く。

実践レポート（MT用）

単元・題材名 (授業名)	心とからだの学習② (自己理解を深めるために②)	生徒	1学年 生徒 23 名
		場所	視聴覚室
日 時	平成 30 年 11 月 28 日(水)3～4校時	指導者	MT:山本 ST1:高山 ST2:亀田 ST3:泉谷 ST4:津村 ST5:山木 ST6:藤倉

① 主体的な学びについて

今回の学習を通して、自分の長所や短所の理由はなぜなのかまで具体的に考えることを目的として活動を進めてきたが、実際に考えるとなると、なぜなのかが分からない生徒が多くいたため、本時の内容としては少し難しかった。しかし、自分のことについて振り返る時間を設けることができたという点に関しては、今後の自分のことを知る上でよいきっかけになったのではないかと感じる。

自分の長所の伸長、短所の改善に向けた具体的な手立てを考えることでは、実際に何事も試行錯誤して経験を増やしていかないことには積み上がっていかないことを知るきっかけになったと感じる。生徒によっては、考えることができた生徒、途中で終わってしまった生徒、難しく書けない生徒もいたが、今後必要である問題を解決する力を育むためのきっかけの一つになったのではないかと考える。

② 対話的な学びについて

事前にルールを設けることで、グループの全員が意見を言いやすい環境を作ることができたのではないかと考える。実際にアドバイスをしたり、されたりすることで、自分の見方や相手からの見られ方について再度知るとともに、それを受け止め、今後の具体的な手立てを考えるきっかけになったのではないかと考える。

③ 深い学びについて

今回の授業を通して、実際に深い学びを得られたわけではないが、周囲からアドバイスを受け、自分で考えた手立てを、他のどの場面で活用できるのかを考え、記入することで少しでも意識するような機会になった。今後は、それを実践していくことで、深い学びにつながっていくのではないかと考える。

④ STの活用の仕方について

今回の授業では、STに生徒からの相談があるまで言葉掛けをしないことをお願いし、徹底していただいたことで、分からないことがあった生徒は自ら尋ねる場面が多くあったように感じる。また、相談された時でも、答えをそこで出すのではなく、答えにたどり着けるような過程のアドバイスをしていただくことを周知することで、相談したからといって全て解決できるわけではなく、自分でそのアドバイスを受けて、考えることができたのではないかと感じる。その一方で自分から尋ねることができない生徒もいたため、その生徒に対しては事前のルールの確認をすることで、相談することができる生徒もいた。

実践レポート（S T用）

単元・題材名 (授業名)	心とからだの学習② 「自己理解を深めるために②」	生 徒	1学年 生徒23名
		場 所	視聴覚室
日 時	平成30年11月28日(水)3～4校時	指 導 者	MT:山本 ST1:高山 ST2:亀田 ST3:泉谷 ST4:津村 ST5:山木 ST5:藤倉

① 主体的な学びについて

自分の長所と短所を振り返る学習を行った。これまでの取り組みの成果が現れており、必要以上に言葉掛けをしなくても生徒は主体的に考え、対話し、学習に取り組んでいた。

② 対話的な学びについて

授業のルールを確認して、グループ内で話しやすい場の設定ができていた。また、個々の考えを発表できる人間関係ができており、自分の長所や短所を素直に伝えることができていた。

③ 深い学びについて

取り組み内容がやや多かったため、内容を減らして指導することで『深い学び』につながると考える。自分の長所と短所は、生徒が主体的に考え、対話し、学習することで自分の考えを深められたと思う。

④ S Tとしての動き方について

授業のルールを共通理解できていることで、STの役割や言葉掛けができた。生徒から相談があった場合にアドバイスをするというSTの役割が薄れてしまい、相談がないのにアドバイスをしてしまった。

実践レポート（S T用）

単元・題材名 (授業名)	心とからだの学習② 「自己理解を深めるために②」	生 徒	1学年 生徒23名
		場 所	視聴覚室
日 時	平成30年11月28日(水)3～4校時	指 導 者	MT:山本 ST1:高山 ST2:亀田 ST3:泉谷 ST4:津村 ST5:山木 ST5:藤倉

① 主体的な学びについて

これまでの学習を振り返り、自身の長所と短所を振り返る学習を行った。長所や短所の理由を考えると、なぜなのか理由が分からない生徒が多くいた。授業だけではなく、日頃の学習から自身の振り返りが必要であると感じた。また、長所の伸長、短所の改善をするための手立てを考える学習を行った。どうすると良いのかを考える良い機会となり、問題解決をするための手段を学び、今後に向けて良い学びとなった。

② 対話的な学びについて

授業開始時にルールを設定したことで、話を聞く姿勢やグループで話しやすい環境を作ることができた。また、長所や短所を伝え合ったり、手立てを一緒に考えたりすることで、お互いのことを考えながら意見を伝え合い、言葉遣いや伝え方にも意識して取り組むことができたのではないかと考える。

③ 深い学びについて

教え合いや伝え合いなどの経験をする中で、助け合うことの大切さを知る経験になったと感じる。しかし、内容が多かったことで、時間が足りなくなってしまった。1学年段階としての内容の精選が必要である。

④ S Tとしての動き方について

MTとしての授業の目的が明確であったため、指導がしやすかった。また、統一のルールを共通理解できていることで、生徒自身もルールを意識した姿勢で授業に取り組んでいたため、必要以上の言葉掛けをしなくて良かった。

実践レポート（S T用）

単元・題材名 (授業名)	心とからだの学習② 「自己理解を深めるために②」	生 徒	1学年 生徒23名
		場 所	視聴覚室
日 時	平成30年11月28日(水)3～4校時	指 導 者	MT:山本 ST1:高山 ST2:亀田 ST3:泉谷 ST4:津村 ST5:山木 ST5:藤倉

① 主体的な学びについて

学年全体の授業でS Tの数も多いが、最初に授業のルール提示をすることで、授業態度に対する教員からの指導の一貫性を保つことができた。生徒が主体的にルールを意識することで、教員からの注意の数が減りつつも、メリハリのある雰囲気作りができていた。

② 対話的な学びについて

グループでの話し合いで生徒同士の対話が設定されていた。実態別のグループ分けだったため、支援が必要なグループについて、STの働きとして、臨機応変な支援や助言を手厚くするという判断をするべきだった。

③ 深い学びについて

授業後に自分のことをもっと知りたいという生徒がいたことから授業の目的を実践できていたと感じる。また、内容が多すぎたため、内容を絞った方がより深い思考につながったのではと考える。

④ S Tとしての動き方について

統一のルールを共通理解できていることで、STの役割や言葉掛けが明確にできた。

実践レポート（S T 用）

単元・題材名 (授業名)	心とからだの学習② 「自己理解を深めるために②」	生 徒	1学年 生徒23名
		場 所	視聴覚室
日 時	平成30年11月28日(水)3～4校時	指 導 者	MT:山本 ST1:高山 ST2:亀田 ST3:泉谷 ST4:津村 ST5:山木 ST5:藤倉

① 主体的な学びについて

ルール設定や板書を確認しながら生徒個々が自分の長所、短所、それに伴う手立てを考えることができた。

② 対話的な学びについて

ルール設定が明確であったので、生徒同士の話し合いがスムーズにできていた。

③ 深い学びについて

ルールを基にグループでの話し合いをし、生徒一人一人が教え合うことの大切さを知ることができたと思う。

④ S Tとしての動き方について

統一のルールを共通理解でき ST の役割や言葉掛けが明確にできていたと思う。

実践レポート（S T 用）

単元・題材名 (授業名)	心とからだの学習② 「自己理解を深めるために②」	生 徒	1学年 生徒23名
		場 所	視聴覚室
日 時	平成30年11月28日(水)3～4校時	指 導 者	MT:山本 ST1:高山 ST2:亀田 ST3:泉谷 ST4:津村 ST5:山木 ST5:藤倉

① 主体的な学びについて

自分の長所と短所を振り返る学習を行い、授業のルールが生徒一人一人に意識されており、必要以上に言葉掛けしなくても生徒は主体的に考え、対話し、学習に取り組んでいた。

② 対話的な学びについて

授業のルールを基にグループで話しやすい場の設定ができていた。まずは個々の考えをしっかりとまとめることで、自分の長所や短所を仲間に伝えることができていた。

③ 深い学びについて

内容が多かったので、内容を絞ることでより深い学びにつながったのではないかと考える。自分の長所と短所について生徒が主体的に考え、対話し、学習することで自分の考えを深められたと思う。

④ S Tとしての動き方について

授業のルールを共通理解できていることで、STの役割や言葉掛けが明確にできた。

実践レポート（ST用）

単元・題材名 (授業名)	心とからだの学習② 「自己理解を深めるために②」	生徒	1学年 生徒23名
		場所	視聴覚室
日時	平成30年11月28日(水)3～4校時	指導者	MT:山本 ST1:高山 ST2:亀田 ST3:泉谷 ST4:津村 ST5:山木 ST5:藤倉

① 主体的な学びについて

自身の長所と短所を振り返るときは、大きい紙なので確認しながら記入し振り返ることができたが、長所や短所の理由を考えると、なぜなのか分からない生徒が多くいた。理由を考えるときにもう少し例を具体的にすると考え方のポイントをつかみやすくなるのではと思った。次に手立ての記入欄が裏側で表を裏返ししながら書くのは取り組みづらいのではないかと考える。

② 対話的な学びについて

本時のルールを設定したことで、話し合いへの姿勢が理解できたのではないかと考える。また、STの先生方と演習をして見せることで、もっとスムーズに話し合いができたのではないかと考える。普段は話し合いの演習や手本を見せる時間はなく、話し合いはできるのではないかと考えがちであるので、演習を丁寧にやっておくとこれからの授業に大きく役に立つと考える。

③ 深い学びについて

思った以上にしっかりした考え方をしていると感心した。しかし、いつもここまではできるが、次の時間には忘れているのが生徒の課題である。深い学びを考えるときに具体的に3学期はどうするのか、忘れ物をしないためにどんな確認をするのかまで細かくできると良かったと考えるが、内容が多すぎた気がする。1年生としての内容の精選が必要であると考え。

④ STとしての動き方について

生徒から相談があった場合にアドバイスをするというSTの役目を忘れて、相談がないのにアドバイスをしたり、ヒントを出したりしてしまった。

授業参観者アンケート

授業者： 山本 拓郎

「主体的・対話的で深い学び」についての評価

○1 学年より

- ・長所と短所の「なぜ」や具体的な手立てを自分で考え、主体的に学習できていました。また、分からないときには自ら質問する様子も見られました。
- ・グループでのアドバイスは、相手のことを考えて具体的に話すことができていました。
- ・4～5人グループは、対話する環境として学習的にも時間的にも良い人数でした。
- ・人から自分がどう思われているかは生徒たちにとって非常に興味・関心があることだと思います。
- ・人から伝えられることで自分を客観視し、働くために必要な力をつけるために何を改善しなければいけないかという次の興味・関心につながる学習として主体的な学びにつながっていたと思います。
- ・何について対話するかを設定するかが大切だと思いますが、短所だけでなく、長所について対話することで、考えを広めることになったと思います。
- ・働くために求められる力はたくさんありますが、人の考え方、自分の考え方を比較したり、関係付けたりすることで、深い学びになったのではないのでしょうか。

○2 学年より

- ・自分の長所と短所の「なぜ」を考えることができていました。少し難しい質問かと思いましたが、自分なりの答えを書けている生徒が多く見られました。また、分からないところを自分から質問することができていました。
- ・3時間目しか参観できず、対話の場面は見ることはできませんでしたが、話し合いのルールで「全員が必ず意見を出す」とあるのが良いと感じました。
- ・長所、短所の「なぜ」を考えると手が止まったり、何をしたらいいか分からなかったりする生徒が少なく、主体的に活動できていました。
- ・生徒同士の対話だけでなく、MT と生徒のやりとりが多く対話的でした。

○3 学年より

「主体的な学び」

長所・短所だと思う理由を考えさせる題材は、自分を見つめ合う良い機会になると思います。ほとんどの生徒が考えることができた。ほとんどの生徒は理由を考えることができたが、できていない生徒（プリントに記入していない生徒）もいたので、手厚い支援やアドバイスがあれば良かったと思いました。

「対話的な学び」

長所を伸ばさせる手立て、短所を改善する手立てをグループで話し合うことができたので、良かったと思います。対話が上手くできているグループとできていないグループがあったので、司会や記録などの役割を決めた進め方や話し合う内容の視覚化を行えばもっと良かったと思いました。

「深い学び」

手立てをどの場面で行うのかを考えることによって、深い学びができたと思います。長所、短所の

自己研鑽は、どの場面にも当てはまるので良い題材だと思いました。
授業を通しての感想（良かったところ・改善点、MT・STの動きについてなど）
○1 学年より ・MT+ST の目が全体に行き届いていました。集中が難しい生徒や筆が進まない生徒に複数の指導者が言葉を掛け、アドバイスしていました。 ・ST が活動の遅れているグループの生徒に、MT に相談するように促していました。MT の意図を ST が理解し、指導者間の連携が取れている様子を見られました。 ・1 年生として、とても良い教材で参考になりました。自分の授業にも生かしたいと思います。ありがとうございました。 ○2 学年より ・生徒の話を聞く姿勢（勝手に私語をしていない、顔を上げて話を聞いているなど）が良かったです。「誰かが話しているときには、必ず手を止める。」は、いろいろな場面で必要なことなので、こういった授業のときに改めて確認すると、定着につながると感じました。 ・ST の人数が多すぎると感じました。5 つのグループに分けるなら、MT 1 人、ST 5 人が最大なのかなと思います。（個別に支援が必要な生徒がいる場合を除きます） ・見学者用にワークシートを配布、事前準備すると良いです。 ・生徒が手を挙げて意見を言ったときにももっと褒めた方が良いです。 ・「試行錯誤」という言葉の理解が生徒にとっては少し難しい気がしました。 ・生徒の話を聞く姿勢がとても良いです。 ○3 学年より ・本時のルールを提示したことにより、授業がより効果的に展開できていたので良かったです。また、卒後でも大切なルールなので良い試みだと思いました。 ・プリントにメモの欄があって良かったのですが、メモできる時間を設ければもっと良いと思いました。 ・MT は、授業全体の流れや状況を全体に周知することで、他の生徒や ST に見通しをもたせていたので良かったです。 ・ST は、MT が説明しているときに、生徒の指導をしっかりとっていたので、MT が話の流れを止めずにスムーズに授業を行えていたので良かったと思います。 ・ST は、グループ学習でしたが生徒全員を指導していました。ST がグループごとに担当することで、より生徒への一貫した指導が行えて、ST の役割が明確になると思います。

2 学年 生活単元学習 学習指導案

単元・題材名 (授業名)	学校祭を成功させよう (よりよい上演内容を追求する)	生徒	2学年 生徒 22 名
		場所	視聴覚室
日時	平成 30 年 11 月 26 日(水)4校時	指導者	MT:田中博 ST1:住谷 ST2:中市 ST3:海田 ST4:石井

1 授業のねらい

(単元の目標)

- ・観客に伝わりやすい演技の仕方を理解することができる。
- ・自分の配役の性格や特徴を考えることができる。
- ・劇を演じることを通して、その内容を観客に伝えることができる。

(本時の目標)

- ・学校祭当日の公演を振り返り、上演内容をより良くするための手立てを考えることができる。
- ・他の生徒の意見を聞くことを通して視点が広がったり、自分の考えに自信をもったりすることができる。

2 生徒について

- ・自分の価値観のみで仕事を捉え、出来、不出来や向き、不向きを判断してしまう。
- ・他者意識の弱い生徒が多く、周囲の人とコミュニケーションする能力が乏しい。
- ・課題解決するとき、お互いに協力して取り組む姿勢ができていない。
- ・物事を進めるとき、より良くしようとする意識が強い。

3 指導計画(本時：全7時間の4時間目)

- 第1回 10月26日 金：学習計画の確認、舞台発表の取り組み目標の確認、事前学習
- 第2回 11月22日 木：改善アイデアを出すための視点を考える
- 第3回 11月26日 月：学校祭当日の動画を見て、来年度に向けての改善アイデアを考える
- 第4回 11月26日 月：改善アイデアを交流し、自分の最終アイデアをまとめる(本時)
- 第5回 11月28日 水：行事作文を書く(下書き)
- 第6回 11月28日 水：行事作文を書く(下書きまたは清書)
- 第7回 11月30日 金：行事作文を書く(清書)

4 「主体的・対話的で深い学び」を実現するための工夫

① 主体的な学びについて

- ・学校祭当日のビデオによる振り返りや実際の自分の経験に基づいて、舞台発表に関する改善のアイデアを考えることができることから、与えられた課題を自分事として捉えることができる。

② 対話的な学びについて

- ・今回の学習場面は、前後の配役との関係やスタッフも含めた舞台発表全体を通しての反省であり、自分と他者の関係を抜きにして振り返ることはできないことから、生徒間同士で反省

するときに、生徒間で反省の内容を確認したり、調整したりする場面ができやすくなっている。

③ 深い学びについて

- ・振り返りの視点作りから来年度の舞台発表に引き継ぐポイントの整理までを、実際の反省を通して自分たちで行うことから、舞台発表を最初から最後まで自分たちの力で作り上げることになる。そうすることで、物事に一貫して取り組む姿勢、物事をよりよくしていく姿勢づくりに深めて学習することができる。

5 期待できる指導の効果

- ・2年生は様々な活動場面において、教師等による支援があってもそれに気付かず、自分たちだけの力でできたと考えてしまう傾向が強い。また、個々の行事を反省したとしても、次の活動場面や生活場面で意識して改善しようとする意識が弱く、その結果として反省しただけで終わってしまう傾向がある。
- ・今回の学習は、自分の取り組んだ活動の反省を自分事として捉え、忘れたり、形だけ反省したりして終わらせるのではなく、次の学習活動をよりよくすることにつなげる姿勢が大切であることを実感できる。そして、2学年生徒の課題でもある「今のままでいい」「私はできているからいい」という意識から、「次はもっと良いものを」という意識を醸成する効果が期待される。

※ 授業を振り返って

行事後の作文の記述を整理すると、各生徒が舞台発表に向けた自分の姿勢や来年度の自分の取り組む姿勢を自分の言葉で表現することができており、「経験に基づいた振り返り」という設定は、「自分事にする」という点では、2年生の生徒には有効であったと考える。

反省（振り返り）の視点の整理について、生徒と共に上位語に結び付けながら考えることができたが、多彩な視点で反省を上げていく中で、視点同士のつながりにも気付けるように、発問を工夫して生徒に投げかけられれば良かったと考えている。

学習環境の自己管理については、発言の仕方や机上整理について、就労後の姿をイメージして、その場に合うよう、引き続き習慣付けたい。

別紙 1 - 2

6 本時の展開

	学習活動	生徒の活動	教師の活動		教材教具
			MT	ST	
導入 3 校時 50 分	・ 本時の学習を捉える ・ 舞台発表のビデオを鑑賞する	・ 説明を聞いて、今日の学習内容と流れを理解する。 ・ 学校祭当日の舞台発表のビデオを鑑賞する。	・ 【説明 1 分】 前時にまとめた改善の視点を振り返り、自分の改善アイデアをまとめる。 ・ 【指示 45 分】 改善の視点を踏まえてビデオを見る。必要に応じてメモを取ってよい。	・ 生徒が、視点に沿ってビデオを観ているかなど、机間巡視する。	・ ビデオ ・ テレビ
展開 4 校時 45 分	・ <u>反省の視点に基づいて改善アイデアを考える</u> ・ <u>改善アイデアを交流する</u> ・ 自分の改善アイデアをまとめる	・ <u>付箋紙 1 枚に改善策を一つ、記入する。</u> ・ <u>模造紙に付箋紙を貼り付け、改善アイデアを整理、全体に発表する。</u> ・ <u>各グループの改善アイデアも踏まえ、自分が一番大切だと考える改善アイデアを絞り込む。</u>	・ 【発問 8 分】 <u>どんな改善策が必要かを付箋 1 枚に一つ書くように指示する。</u> ・ 【指示 30 分】 <u>同じ意見の付箋を重ねたり、近い意見をまとめたりするように指示する。</u> ・ 【指示 7 分】 <u>全てのグループの意見を聞き、自分の考えと比較して選択し、まとめる。</u>	・ <u>考えがまとまらない生徒やうまく書けない生徒のサポートに当たる。</u> ・ <u>アイデアの出し残しがないか、机間巡視する。</u> ・ 自分の考えを絞ることができているか、机間巡視する。	・ 付箋紙一人 10 枚 ・ 模造紙 1 枚 ・ 黒マジック ・ 記入済の付箋紙
整理 5 分	・ 今日の学習内容をまとめる ・ 挨拶する	・ ワークシートに絞り込んだ改善アイデアを書く。 ・ 机上を整理し、氏名生徒が挨拶する。	・ 【指示 4 分】 ワークシートに選んだ改善アイデアを書き込む。 ・ 【指示 1 分】 机上の状況と姿勢を確認し、挨拶する生徒を指名する。	・ ワークシートに書き込んでいるか、机間巡視する。 ・ 生徒の状況を観察し、挨拶する。	・ ワークシート

※協同学習の要素となる所には下線を引く。

実践レポート（MT用）

単元・題材名 (授業名)	学校祭を成功させよう (よりよい上演内容を追求する)	生徒	2学年 生徒22名
		場所	視聴覚室
日時	平成 30 年 11 月 26 日(水)4校時	指導者	MT:田中博 ST1:住谷 ST2:中市 ST3:海田 ST4:石井

① 主体的な学びについて

学校祭当日のビデオによる振り返りや実際の自分の経験に基づいて、舞台発表の改善のアイデアを考えることができた。これらは自分たちが経験したことであり、かつ自信をもって取り組めた公演だったこともあり、振り返るための視点を設定する活動から、生徒は与えられた課題を自分事として捉えることができ、主体的な学びにつなげることができた。

② 対話的な学びについて

「舞台発表全体の反省の視点を考える(個人)」や「話し合いしながらまとめる(グループ)」、「視点に基づいて反省する(個人)」、「反省したことの整理とまとめ(グループ)」というように、2時間続きの学習活動の中で多様な学習グループを編成し、生徒間で反省の内容を確認したり、調整したりする場面がみられたので効果的に指導できたと考える。

③ 深い学びについて

振り返りの視点作りから来年度の舞台発表に引き継ぐポイントの整理まで、実際の反省を通して自分たちで行ったことで、舞台発表を最初から最後まで自分たちの力で作り上げたという意識が高くなった。事後の作文の内容を見ると、生徒個々、そして学年全体としても「達成感」を感じ、「よりよくするための方策を自分事として考える」姿勢の大切さを、複数の生徒が表現しており、物事に一貫して取り組む姿勢をよりよくしていく姿勢づくりを深めて学習できたと判断している。

④ STの活用の仕方について

基本的には「必要に応じての支援」に徹し、積極的介入ではなく、観察と最低限の関わりに留める位置付けで指導に関わってもらった。生徒個々の特性もあるため、支援が必要な場合もあるが、今回は生徒の経験を基にした活動であったため、その対応で良かったと考える。

将来的に、進路先でも積極的な支援なしで活動に入る場面は普通にあり、困ったら確認すればよいので、必要最小限の関わり方をして、今から生徒に意識させることが大切である。

実践レポート（S T 用）

単元・題材名 (授業名)	学校祭を成功させよう (よりよい上演内容を追求する)	生 徒	2学年 生徒22名
		場 所	視聴覚室
日 時	平成30年 11 月 26 日 (水) 4校時	指 導 者	MT:田中博 ST1:住谷 ST2:中市 ST3:海田 ST4:石井

① 主体的な学びについて

グループに分かれて改善点を付箋に記入する時間を設定していたため、生徒一人一人が自分の考えを表出することができた。

② 対話的な学びについて

グループ内で自分の意見を発表したり、相手の意見を聞いたりする時間では、否定するのではなく前向きな意見が多かった。司会役などを決めなくても話し合いがスムーズに進んでいた。

③ 深い学びについて

学校祭の振り返りを一度だけではなく、繰り返し行うこととたくさんの人の意見を聞くことによって深い学びにつながった。

④ S Tとしての動き方について

自分の考えを発表したり、付箋に書いたりするのが苦手な生徒や手が止まっている生徒がいた場合は、話しかけて支援をした。つまり内容は、人それぞれ異なるので、本人に話を聞いてみないと対応できない。意欲的に活動ができていない生徒がいた場合の対応が難しいが、MT と事前に話し合っておくと共通理解の基で対応することができる。

実践レポート（S T 用）

単元・題材名 (授業名)	学校祭を成功させよう (よりよい上演内容を追求する)	生 徒	2年生徒22名
		場 所	視聴覚室
日 時	平成30年 11 月 26 日 (水) 4校時	指 導 者	MT:田中博 ST1:住谷 ST2:中市 ST3:海田 ST4:石井

① 主体的な学びについて

付箋を活用したことで、自分の意見を円滑に表出することができた。また、劇への取り組み方が主体的であったため、必然的に主体的な学びができた。

② 対話的な学びについて

小グループにすることで、自分の意見が言いやすい環境であり、活発な意見交換ができた。

③ 深い学びについて

劇を成功できた理由や今後の課題を文字にしたり、キーワード化したりすることで、具体的に振り返ることができた。そのことにより、イメージをしやすい授業となり、深い学びになったと考える。

④ S Tとしての動き方について

数多くの付箋に書かれた意見を生徒がよりイメージできるよう、「見せ方」の工夫が必要だったと考える。

実践レポート（S T 用）

単元・題材名 (授業名)	学校祭を成功させよう (よりよい上演内容を追求する)	生 徒	2 学年 生徒 22 名
		場 所	視聴覚室
日 時	平成30年11月26日(水)4校時	指 導 者	MT:田中博 ST1:住谷 ST2:中市 ST3:海田 ST4:石井

① 主体的な学びについて

自分たちの劇をビデオで見ることで、どのように演技していたかを振り返り、改善点や次年度に向けて、一人一人が考えることが出来ていた。事前に生徒が出していた改善点に具体的なアイデアを考えていったため、生徒は考えやすそうだった。

② 対話的な学びについて

付箋に書いたアイデアをカテゴリーに分けることで、グループ内での会話が出来ていた。しかし、話をまとめることが得意な生徒が話すことが苦手な生徒が話し終わる前に内容を要約している場面があった。話し合う場面では、最後まで話を聞くなどのルールがあっても良いのではないかと感じた。

③ 深い学びについて

劇の練習中から、生徒が考えた意見を取り入れてもらえていたことで、生徒自身が振り返りをしっかりと行えていた。

④ S T としての動き方について

事前の打ち合わせが特になく、STの動きがよくわからないまま授業が始まってしまった。事前の打ち合わせが大切だと改めて感じた。指示が理解できていない生徒には助言をしながら指示内容を確認した。しかし、指示が理解できていない要因として、隣の生徒と話をしていたり、話に集中できていなかったりする場面があったため、MTが説明をするときには話を聞くよう促す必要があった。

実践レポート（ST用）

単元・題材名 (授業名)	学校祭を成功させよう (よりよい上演内容を追求する)	生徒	2学年 生徒22名
		場所	視聴覚室
日時	平成30年 11 月 26 日 (水) 4校時	指導者	MT:田中博 ST1:住谷 ST2:中市 ST3:海田 ST4:石井

① 主体的な学びについて

自分の考えを付箋に記入する時間を短時間で設定していたため、生徒も意欲的に書くことができていた。自分の体験を基に考えるため、主体的に活動に取り組むことができていた生徒が多かった。

② 対話的な学びについて

意見を交流する際にも前向きな発言をしたり、相手の意見を受け入れて発言したりする生徒がいて、話し合いをスムーズに進めることができていた。一方で発言が苦手な生徒は、発言できないこともあった。

③ 深い学びについて

スポットライトなどの裏方を経験したことにより、物事を創り上げていくためには様々な支えが必要であることなどを知ることができたと感じる。

④ STとしての動き方について

自分の体験を基に考える授業であったため、多くの支援は行っていない。生徒が考えるためのヒントを与えるなど行った。しかし、支援がやや足りず、考えることに時間がかかっていた生徒もいた。その支援の度合いを見極めていく必要もあった。

授業参観者アンケート

授業者：田中 博昭

「主体的・対話的で深い学び」についての評価

○1 学年より

- ・2 学年の後半で説明が丁寧すぎると思います。大まかな説明をし、分からなければ聞くことや、確認すること、報告することを自ら行うよう意図的に場面を作ることがもっとあって良いと思います。そのために ST がいると考えます
- ・全生徒の意見を吸い上げ、タブレットや様々な機器を使って見やすくなる工夫をしているのは良いです。
- ・出てきた意見のまとめを生徒たちにやらせてはどうかと思います。それが主体的、対話的で深い学びのきっかけになるのではないかと思います。

「主体的な学び」

- ・それぞれの付箋をカテゴリー分けするときに、教師主体になってしまったため、これも生徒にカテゴリー分けさせることで、より生徒にとって主体的な活動ができたのではないかと感じました。

「対話的な学び」

- ・生徒同士で話し合い活動を行うことで、自分の意見だけではなく、周囲の意見も聞くことで、お互いの感じ方や気付きの違いについて知ることができたのではないかと思います。

○2 学年より

- ・前の廊下側のグループが付箋を貼りに行ったときに、2 名は分類していましたが、2 名は席で待っていました。主体的、対話的を意識させるには、分類まで生徒に協力的に行わせるようにすると良いと思います。
- ・「劇をより良くする。」を仕事に結び付けられると良かったです。今年、2 学年は劇へのモチベーションが高かったので、うまくつながられる生徒はその他の取り組みが良くなると思います。
- ・全員が自分の考えを出す設定が良かったです。
- ・自分で出した意見や、友達の意見を選ぶことで、考えが広がると思いました。
- ・改善アイデアを、前回の授業で考えさせているので、本授業での深い学びへの取り組みに入りやすいと感じました。

○3 学年より

- ・反省をまとめる所では、様々な意見が出て、取り組む姿勢は良かったです。

○管理職より

- ・意見が書かれた付箋を同じ内容ごとに分類をする学習では、「周りの生徒の意見をしっかりと聞くことができる生徒」や「みんなが分かりやすいようにリードする生徒」がいるグループはスムーズに分類することができていました。
- ・分類した際に生徒自身がキーワードを考えて、発表することができていました。

授業を通しての感想（良かったところ・改善点、MT・STの動きについてなど）

○1 学年より

- ・2 学年の雰囲気として、授業中関係のないことをしていても問題なかったり、話を聞かなくてもなんとかなったりする空気がまんえんしているように感じました。普段からメリハリをつけた取り組みが必要だと思います。学校内でもっと可能性は引き出せると考えます。（例：姿勢、視線、約束、ルール、言葉遣いなど）
- ・ST が生徒と同じ立場になっている。MT が説明などしているときに、一緒に話を聞くだけではなく、生徒の動きや行動をもっと観察する意識をもつべきだと思います。
- ・ICT を活用して生徒に見えるように提示していたのが良かったと思いますが、それぞれの意見をずっとそれで見続けるという点では、途中生徒が飽きを感じていたような様子も見受けられました。
- ・ST の動きとして、「話を聞くときは聞く。」「何かをするときにはする。」とメリハリをつけて活動を行うことができるとより良いと感じました。（姿勢がだらしくなったり、隣同士で話をしていたりする生徒などがいたため）

○2 学年より

- ・作業内容を考えると机上の整理をさせる必要がありました。廊下側の後ろのグループは生徒が気付いてファイルをしまうことができていたので、学校祭の道具関係や作業学習と関連させて机上の整理を伝えられたら良いと思います。
- ・テレビ、タブレットを使用して付箋を全員で共有できるようにしているのが良かったです。
- ・ST が多いので、タブレットで写す人とホワイトボードに記入する人に分けるとスムーズに進むと思います。
- ・今回に限らずですが、生単ではST が後ろで見ている場面が多いような気がします。
- ・ICT の活用がとてもわかりやすく、生徒にも授業への興味を持たせられていたと感じました。
- ・ST が MT の指示を繰り返し大きな声で説明している場面があり、不安そうな生徒が見られませんでした。

○3 学年より

- ・テレビで付箋紙を写すことで、生徒がよそ見をしないで見ることができていました。
- ・MT、ST とともに生徒の状況を見て、的確な助言をしていました。
- ・授業の最後に行われた発表のときに、グループ全員が発表をするわけではなかったため、時間を持て余している生徒がいました。

○管理職より

- ・分類する視点が明確になっていたために当日の公演をよりよくするためのアイデアを考えやすかったと思います。
- ・生徒が「興味がないから考えられない」と意見を言った際に、興味をもって考えられるようスモールステップで丁寧に説明していました。
- ・文章が上手く書けない生徒に、「箇条書きでも良いよ。」「キーワードでも良いよ。」と話していたことで生徒は考えやすくなり、良かったです。

3 学年 生活単元学習 学習指導案

単元・題材名 (授業名)	学校祭を成功させよう	生徒	3学年 生徒32名
		場所	視聴覚室
日時	平成 30 年 11 月 26 日(月)5～6校時	指導者	MT:工藤 ST1:石田 ST2:石川 ST3:成田 ST4:外山 ST5:上村 ST6:森山

1 授業のねらい

(単元の目標)

- ・演技の仕方を理解し、観客に伝わりやすいように実践することができる。
- ・劇を通して何を伝えたいのかを考えたり、配役の特徴を意識したりしながら演技することができる。
- ・劇の内容に関心を持ち、意見や質問をしながら練習を行うことができる。

(本時の目標)

- ・劇の主人公のような失敗を繰り返さないように、どのようにするべきかを考えることができる。
- ・理想の社会人について考え、卒業までに理想に近づくため、どのように努力をするべきかを考えることができる。

2 生徒について

- ・生徒の大半が教師の指示を聞き、正しく行動できる。
- ・自分の考えを書く作業について、具体的に一人で考えられる生徒から、考えを思い付くまでに時間が掛かったり、教師の助言が必要だったりする生徒などが在籍している。
- ・分からないことを、そのままにしてしまう生徒が数名いるため、分からないことを質問するなどの言葉掛けが必要である。

3 指導計画

- 第 1 回 10 月 30 日 : オリエンテーション
- 第 2 回 10 月 31 日～第 13 回 11 月 16 日 : グループ練習とステージ練習
- 第 14 回 11 月 26 日 : 学年劇の振り返り (本時)
- 第 15 回 11 月 28 日 : 作文書き
- 第 16 回 12 月 3 日 : 作文書き
- 第 17 回 12 月 4 日 : 作文書き

4 「主体的・対話的で深い学び」を実現するための工夫

- ① 主体的な学びについて
 - ・事例などについて一人で考える時間を設ける。
- ② 対話的な学びについて
 - ・グループ内で自分の意見とその理由を発表し、出た意見を参考に話し合いながら一つにまとめる。
- ③ 深い学びについて

- ・理想の社会人に近づくために、卒業までにどのように取り組むかを考えさせる。

5 期待できる指導の効果

- ・自分が考え付かなかった意見を知ること、考えの幅を広げることができる。
- ・今後、事例と同じことがあったときに、自分でどのように行動すべきか考えられるようになる。

※ 授業を振り返って

劇の内容に対する設問について考えさせ、解答する授業になってしまい、テーマについての振り返りができずに終わってしまった。劇の内容とテーマについて考える時間のバランスを設定することで、深い学びにつながると感じた。

6 本時の展開

	学習活動	生徒の活動	教師の活動		教材教具
			MT	ST	
導入 5分	- 挨拶 - 本時の学習内容	- 指名された生徒は挨拶をする。 - 本時の流れを PPT を見て確認する。	- 姿勢を正して、座っているか確認後に、生徒を指名し、挨拶するよう促す。 - 本時の流れを PPT に映す。	- 正しい姿勢で座っているか確認をする。 - ST は担当のグループの生徒がしっかり PPT をみているか確認をする。	- PC - PPT - スクリーン
展開 90分	- 学年劇の反省を発表 - 学年劇のテーマについて振り返る - 事例について考える	- 指名された生徒は3校時に書いた反省を発表する。 - ワークシートを見て、今回の学年劇の内容を思い出す。 - 活動内容と方法について、PPT を見ながら理解する。	2名の生徒を指名し、反省を発表するよう促す。 - ワークシートを見るよう指示し、学年劇のテーマを思い出させる。 - 主人公が劇の中で起こした失敗を卒業後に自分がしないように、どのように行動をすべきかを考えたり、主人公の将来を予想したりすることを伝える。 - 活動方法と決まりについて以下の内容を PPT に映し出し説	- テーマがどこに書かれてあるか分からない生徒に対し、言葉掛けする。 - 分からない生徒には補足で説明をする。	- ワークシート① - PPT

		明する。 ① 自分で考える。(5分) ② グループ内で発表。(5分) ③ グループの意見として一つにまとめ、発表する代表者も決める。(8分) ④ グループの代表者が発表する。 ⑤ 解答と説明。 ※活動中の決まり ・グループの先生方の助けが必要なときは自分たちから質問する。 ・グループで活動する時は、自分の意見と理由を必ず発表する。 ・事例1について個人で考え、ワークシートに記入する。 ・生徒Aは、挨拶に関するワークシートで学習を行う。	各活動の時間を計る。時間になったら終了を伝え、次の活動に移ることを伝える。 ・事例1の問題と選択肢が書かれた用紙を各テーブルに1枚配布する。	ST1～ST6は各活動において生徒からの申し出があった場合、助言を行う。 ・ST2は主に生徒Aと一緒に活動を行う。	・PPT ・事例1の用紙 ・ストップウォッチ
--	--	--	--	---	---

		・ <u>考えた意見についてグループで発表する。</u> ・ <u>全員の意見が出たら、協力してなぜその意見になったのか理由も入れながら、一つの意見にまとめ、ホワイトボードに記入する。その後、発表者も決める。</u> ・ <u>グループの代表者がまとめた意見と理由を発表する。</u> ・ 解答と説明を聞く。 ・ 事例2について個人で考え、ワークシートに記入する。 ・ 生徒Aは、絵を見てどちらが正しいかを判断する学習を、ワークシートを使って学習する。 ・ <u>考えた意見についてグループで発表する。</u>	・ 3グループの進捗状況を確認しながら、全体の活動を巡視する。質問された場合は、助言する。 ※発表時の決まり ・ 発表者の方を注目する。 ・ 発表後は拍手をする。 ・ PPT で解答と説明を行う。 ・ 各活動での時間を計る。時間になったら終了を伝え、次の活動に移ることを伝える。 ・ 事例2の問題と選択肢が書かれた用紙を各テーブルに1枚配布する。 ・ 3グループの進捗状況を確認しながら、全体の活動を巡視する。質問された場合は、助言する。	・ 各グループの生徒が決まりを守れているか確認する。守れていない場合は言葉掛けをする。	・ ホワイトボード ・ マーカー ・ クリーナー ・ PPT ・ 事例2の用紙 ・ ストップウォッチ
--	--	---	--	---	---

	・主人公の未来を予想する	・<u>全員の意見が出たら、協力してなぜその意見になったのか理由も入れながら一つの意見にまとめホワイトボードに記入する。</u> ・<u>グループの代表者がまとめた意見と理由を発表する。</u> ・解答と説明を聞く。 ・劇の主人公の未来を予想し、個人の考えをワークシートに記入する。 ・生徒Aは、絵を見てどのように挨拶をすべきかについて、ワークシートを使って学習を行う。 ・<u>考えた意見についてグループで発表する。</u> ・<u>指名された生徒は発表する。</u>	・発表者は、事例1の時と別の人をグループで決めることを伝える。 ・PPTで解答と説明を行う。 ・持参した台本を見ながら考えても良いことを、活動前に伝える。 ・活動時間は、事例1、2の時間と同じであることと時間も計ることを伝える。 ・各グループの数名を指名し、発表するよう促す。	・各グループの生徒が決まりを守れているか確認する。守れていない場合は言葉掛けをする。 ・ST1～ST6は各活動において生徒からの申し出があった場合、助言を行う。 ・ST2は主に生徒Aと一緒に活動を行う。	・ホワイトボード ・マーカー ・クリーナー ・PPT ・台本 ・主人公の未来を予想する用紙 ・ストップウォッチ
--	--	---	--	---	---

	・理想とする社会人について考える	・ワークシートに理想とする社会人と卒業までに理想に近づくためにどのように取り組むかを考え、記入する。 ・生徒Aは、絵から自分の将来の職業と、用意された文章から卒業までの取り組み方法を選択しワークシートを完成させる。	・劇の主人公が「後輩に仕事を教えられる人になりたい」ということを思い出させる。 ・その後、ワークシート②を配布し、理想とする社会人と卒業までに、理想に近づくためにどのように取り組むかを考え記入することを説明する。	・ST 1～ST 6 は質問があった場合は助言する。 ・ST 2 は主に生徒Aと一緒に活動を行う。	・ワークシート②
整理 5分	・本時のまとめと次回の連絡 ・挨拶	・PPT を見ながら本時の学習の振り返りをする。 ・次回の学習内容を知る。 ・指名された生徒は挨拶をする。	・PPT を使い社会人は、自分で選択肢を考え、行動することの連続であること。そして良い選択をするために周りに相談したり、失敗から学んだりすることで経験が積まれて成長していくことを伝える。 ・次回はグループに分かれて作文書きを行うことを伝える。 ・姿勢を正して、座っているか確認後に、生徒を指名し、挨拶するよう促す。	・生徒の様子を観察する。	・PPT

※協同学習の要素となる所には下線を引く。

実践レポート（MT用）

単元・題材名 (授業名)	学校祭を成功させよう	生徒	3学年 生徒28名
		場所	視聴覚室
日時	平成 30 年 11 月 26 日(月)5～6校時	指導者	MT:工藤 ST1:石田 ST2:石川 ST3:成田 ST4:外山 ST5:上村 ST6:森山

① 主体的な学びについて

劇の中で起きた事例と、理想の社会人について考えさせる時間を設けることで、自分の意見とその理由を明確にすることができた。しかし、劇の内容についての振り返りに偏ってしまい、テーマについて振り返ることができなかった。今後、個人で考えさせるときに、考えさせる内容が偏らないように、STの教員に意見をいただきながら、より入念に検討していきたい。

② 対話的な学びについて

グループの中で自分の意見とその理由を発表し、全員の意見を参考にして、一つの意見にまとめるために、それぞれの意見を合わせて、グループとしての意見を話し合っ決めて時間を設けた。話し合いではどのグループも、仲間の意見を尊重しながら意見交換していた。

反省として、話を進める人がどのグループも同じ人だったという印象があったため、活動における決まりの中で、司会者をその都度変えて話し合わせることで、より協力して活動することができると感じた。

③ 深い学びについて

理想の社会人と、理想に近づくために、卒業までどのように取り組んでいくのか考え、ワークシートに記入させた。MTのイメージとしては、残された高校生活の中でどのように取り組むかを書かせたかった。しかし、取り組み内容について、卒業後にどう取り組むかの内容で書いている生徒がいたため、記入させる前に再度確認するか、卒業まで学校でどのように取り組むかの文章にすることで共通理解し、作業させることができたのではないかと感じた。

④ STの活用の仕方について

STから言葉掛けをする場面を減らし、助言が必要だった場合は、生徒達から声を掛けるように設定した。そうすることで、生徒の活動をじっくり観察してもらった。グループの中では、指示の内容を理解出来ず、助言を求めている生徒がいたため、MTの指示を全員共通理解させるためにSTによる支援は必要不可欠であった。また、別のワークシートを使いながら、学習を進めていた生徒にもSTをつけることで、その生徒に合ったペースで学習を行えるようにした。

実践レポート（ST用）

単元・題材名 (授業名)	学校祭を成功させよう	生 徒	3学年 生徒28名
		場 所	視聴覚室
日 時	平成30年11月26日(月)5～6校時	指 導 者	MT:工藤 ST1:石田 ST2:石川 ST3:成田 ST4:外山 ST5:上村 ST6:森山

① 主体的な学びについて

事例①はほとんどの生徒が容易に解答できていた。事例②については、すぐ解答する生徒もいれば、よく考えてから解答する生徒もいた。自分が選んだ選択肢に理由を記述する際、あまり考えず短い言葉で記入する生徒がいたので、もっと広い視野で考えることができるよう例を挙げて助言を行った。学校祭の舞台発表を関連付けた題材だったため、生徒も身近に考えやすく、卒業後につなげる学習にしようというMTの意図が生徒に伝わっていたと感じた。

② 対話的な学びについて

グループの中で、司会・記録・発表・ホワイトボード持ちと役割分担を行った。自分の役割をもつことで責任感をもって話し合いに参加することができた。一人一人が意見を発表できた点は良かったが、意見をまとめるという点においては、発言する生徒としない生徒（なかなか難しい生徒）がおり、グループ編成に考慮したり、グループ討論についての学習やロールプレイングを繰り返し行ったりする必要があると感じた。

③ 深い学びについて

学校祭の舞台発表を通して伝えたかったことと、社会人になって必要なことを照らし合わせて考えることができた。そして、今の自分から「理想の社会人」になるために必要なことは何かを考える学習活動があり、深い学びにつながっていると感じた。

④ STとしての動き方について

生徒一人一人の特性を捉えた言葉掛けができた。グループ活動を行ったのは良かったが、記入の速度が違ったり、記入する量が違ったりするとどうしても待つ時間が長くなる生徒がいるため、騒がしくなることがしばしばあった。全体の人数も多く、グループ同士の距離も近いため、適切に指導する体制を具体的に組む必要がある学年だと感じた。

実践レポート（ST用）

単元・題材名 (授業名)	学校祭を成功させよう	生 徒	3学年 生徒28名
		場 所	視聴覚室
日 時	平成30年11月26日(月)5～6校時	指 導 者	MT:工藤 ST1:石田 ST2:石川 ST3:成田 ST4:外山 ST5:上村 ST6:森山

① 主体的な学びについて

事例 1、2については選択肢が2択だったので、迷うことが少なかったことで、あまり周りに影響されずに自分で答えを記入することができていた。また、教師の助けを求める質問もほぼなかった。しかし、理由の記入については簡単な言葉だけで短時間で終わらせようとする生徒がいたので、もっと詳しく書くように助言した。

② 対話的な学びについて

司会、記録、発表の役割分担は生徒同士の話し合いで決め、自分の意見も発表することができていた。しかし、グループの意見としてまとめる場面では、意見を言うのみで、話し合いに積極的に関わらない生徒が数名いたため、参加を促した。

③ 深い学びについて

劇で伝えなかったことから、本時の活動を通した上で、卒業までに取り組むことを考えるという一連により、生徒に分かりやすく授業が流れ、深い学びにつながったと思う。

④ STとしての動き方について

担当のグループでは、生徒からの質問を待つだけでは、ワークシートへの記入や話し合いが簡素に終わってしまう様子が見えたため、MTの意図よりも多くの言葉掛けをしてしまったと思う。

実践レポート（ST用）

単元・題材名 (授業名)	学校祭を成功させよう	生 徒	3学年 生徒28名
		場 所	視聴覚室
日 時	平成30年11月26日(月)5～6校時	指 導 者	MT:工藤 ST1:石田 ST2:石川 ST3:成田 ST4:外山 ST5:上村 ST6:森山

① 主体的な学びについて

補助が必要な生徒でも分かりやすくするために、プリントに絵やイラストを多く付けることによって分かりやすくなり、生徒が主体的に考えながらプリント学習を行うことができた。また、プリントを繰り返し行うことで、学習内容の定着を図ることができた。

② 対話的な学びについて

支援が必要な生徒は、教師と1対1で対話をしながら、プリント学習を行うことができた。また、他の生徒も自分の意見をグループ活動での話し合いで意見をまとめるという時間を設けることで、対話的な学びを行うこともできた。

③ 深い学びについて

自分が理想とする社会人像を考えて、それに近づくためには、卒業するまでにどんな努力をすればよいのかを考えさせる活動を行った。社会に出てからは、挨拶や丁寧さ、分からないことを聞くなどの力が必要となり、学校教育の場面と重なる部分がたくさんあるので深い学びにつなげることができた。

④ STとしての動き方について

支援が必要な生徒に対して1対1の指導をした。事前の打ち合わせのときに、生徒がどのようなことを行うのかを確認したことで、他の生徒が学習している内容に合わせて、同じ時間帯に同様の内容の学習をすることができた。また、時間帯を区切ったことによって、生徒が発表している時間には、発表を聞くこともできた。

実践レポート（ST用）

単元・題材名 (授業名)	学校祭を成功させよう	生徒	3学年 生徒28名
		場所	視聴覚室
日時	平成30年11月26日(月)5～6校時	指導者	MT:工藤 ST1:石田 ST2:石川 ST3:成田 ST4:外山 ST5:上村 ST6:森山

① 主体的な学びについて

社会人として問題に直面した場合、どのように対応をするべきなのか、学校祭のテーマや演技上の事例を基にして課題を提示したことにより、生徒にとっては問題解決のために自主的に考えやすかったのではないかと感じた。

② 対話的な学びについて

グループに分かれて問題解決のための選択肢を絞り込むために話し合いをすることにより、対話的な学びに結び付けることができていたと思われる。私が指導を行ったグループでは、司会と書記の役割が自然と出来上がってしまっていて、役割が当たっていない生徒は意見を必ず一つ言わなければならないため意見を言うが、その後の意見のまとめに関しては司会まかせになってしまっている様子が見られた。

③ 深い学びについて

劇のテーマと主人公が「後輩に教えてあげる社会人になるためにはどうしたらよいか」を生かして「理想の社会人」になるためにどうしたらよいかと学習場面を設定しており、深い学びに結び付いていると感じた。

④ STとしての動き方について

分からないことがあれば自分から質問を教師にするようにと設定があり、どこまで教師が話し合いに関わってよいのか迷いを感じた。話が脱線してしまっている、的外れな解答をしている生徒がいたとして教師から指摘するべきなのか、または気が付いた生徒に指摘させるべきなのかを主体的・対話的な学びとしては教師の介入するべき距離感に迷いを感じた。

実践レポート（S T用）

単元・題材名 (授業名)	学校祭を成功させよう	生 徒	3学年 生徒28名
		場 所	視聴覚室
日 時	平成30年11月26日(月)5～6校時	指 導 者	MT:工藤 ST1:石田 ST2:石川 ST3:成田 ST4:外山 ST5:上村 ST6:森山

① 主体的な学びについて

一つ目の事例は答えが簡単に想像できたため解答までに時間がかからなかったが、2つ目の事例は生徒達もよく考えて解答している様子が見られた。選択肢を選んだ理由を考える話し合いであったが、主体的に考えるのであれば、選択肢はなしにする、もしくはもう少し選択肢を増やして迷わせた方が良いように感じた。特段 ST が声を掛けなくても生徒自らの力でワークシートに考えを記入することができていたが、自信のない生徒について記述に時間がかかったため言葉掛けをした。

② 対話的な学びについて

狙っている答えの幅が狭いため、答えが似通ってしまった。そのため、考えの幅を広げるというよりは、お互いの答えの確認というところで収まってしまっていたと感じた。話し合いの時間を設けることで対話にはなっていたが、対話が上手いかないグループにとっては、役割分担をより明確にするなど、もう少しグループワークの仕方に工夫が必要であると感じた。

③ 深い学びについて

「理想の社会人」という言葉に、近未来ではなく数十年後を想定して考えを膨らませている生徒がいた。そのため、「理想の社会人」と「卒業までにどう学ぶか」がリンクされておらず、学校生活のどのような場面で何を学ぶのかということを明確に書けていない生徒が多いように感じた。MT と ST の中で共通理解して目標立てできると良かったと感じる。

④ S Tとしての動き方について

授業を受ける態度についての指導が ST の中でも全体的に足りないと感じた。問題が簡単だったためか、ST がいなくても話し合いが成立しているグループが多かったように感じた。話し合いを見守るための ST ならば、始めからグループの一員として一緒に例題に取り組んだ方が、取り組み方を教師が見せるという意味で効果的であったように感じた。

授業参観者アンケート

授業者：工藤 大地

「主体的・対話的で深い学び」についての評価

○1 学年より

- ・劇を通して卒業後の働く生活について興味・関心を一層もつことができたと思います。そして事例を考えることで実生活での対応について具体的に考えることができ、劇の振り返りから卒業後の生活につなげる主体的な学びができていたと思います。
- ・対話的な学びでは、「何について」対話する場面を設定するかが大切だと思いますが、生徒にとって事例の解答について意見を出し合うことは分かりやすかったと思います。また、それぞれの考えや意見を出し合い、関係付けたり、比較したりすることで自分の考えを深めることができたと思います。

「主体的な学び」

- ・個人で記入する指示が出ていたが、周囲と話をしながら記入している生徒もいました。

「対話的な学び」

- ・話し合いをしているが、話ができる人を中心にではなく、話ができる人が結論を出してしまっている感じが見受けられました。（意図的にルールや司会、記録などで設定してもよかったかもしないです。）

「深い学び」

- ・理想の社会人像を考えるときに、あえて目標を設定するのではなく、理想の社会人像と設定することで、生徒にとってはイメージが付きやすい活動になっていました。また、今後の自分の生活ともリンクさせることで生徒にとっては、深い学びに結び付きやすかったと思います。

○2 学年より

- ・生徒が考える場面では、時間が十分にありました。
- ・劇のシーンと事例がリンクしていることで、考えやすそうでした。
- ・グループ学習では、一人ずつ意見を言うことができていたため、平等性が保たれていて良かったです。
- ・学校祭のストーリーとリンクしている点では、演技を通じて深い学びになったと言えるのではないかと思います。

○3 学年より

- ・生活単元学習の授業で設定の仕方が自分には理解できなかったが、上手に組み立てていたと思います。

○管理職より

- ・言葉の意味が理解できていない生徒がいたときに周りの人がヒントを与え、そのことがきっかけで自分から質問することが多く見られました。
- ・ほとんどの生徒が劇の内容を卒業後の自分の生活に重ね合わせ、主体的に学習に参加することができていました。

授業を通しての感想（良かったところ・改善点、MT・STの動きについてなど）

○1 学年より

- ・ルールの徹底をした方が良いと感じました。（MT が話しているときに、ペンをいじったり、周囲と話したりしている生徒がいた。）
- ・効率という言葉の定義について・・・生徒自身効率という言葉を使っているが、正しい意味を理解せずに使っている生徒が多いと感じました。
- ・生徒にとって身近な内容を取り上げることで分かりやすかったと思います。

○2 学年より

- ・ホワイトボードを活用することで、お互いの意見が分かりやすかったです。
- ・生徒から助けを求めている様子はなく、教師から支援していることがありました。どこまで待つべきか難しいと感じました。
- ・座席の位置をもう少し前につめた方が見やすいのではないかと感じました。
- ・事例1の選択問題 2 択→内容が簡単すぎるため、もっと考えるような内容選択が必要だと感じました。
- ・グループ学習をするとき、席を向かい合わせるときに ST から質問がありましたが生徒がするべきであると感じました。（ST との打ち合わせ）
- ・活動中の決まりのその1が守られていませんでした。
- ・事例1、2の選択肢と解答が主観的すぎると思います。自分が生徒の気持ちになって考えると疑問を感じる解答もありました。
- ・生徒に対する指示の出し方に工夫が必要であると思いました。

○3 学年より

- ・STが1名休んでいて、授業の進める上で十分でなかった所があるのではないかと感じました。
- ・生徒が積極的に話をしていました。そういう場面が設定されていたことが良かったと思います。

○管理職より

- ・主人公の考え方が自分の考え方に似ていると話し、主人公に共感しながら話している生徒が多くいました。
- ・「あなたの理想とする社会人は？」という T1 の発問は「目標とする社会人は？」と聞かれるよりも分かりやすく、考えやすかったのではないかと感じました。